

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社 第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第2学年 題材1「音楽で みんなと つながろう」

♪ みんなで いっしょに あかるい こえで うたいましょう。「メッセージ」(1時間)

●今 何をする?●

★いろいろな国のあいさつの言葉に興味・関心をもち、あいさつが人と人とのコミュニケーションに欠かせないことに気付きます。その上で、いろいろなあいさつの仕方を手話を含む体の動きで表しながら、歌の組とあいさつの組に分かれ、呼びかけとこたえを楽しみます。

☆教科書にある日本語のあいさつの手話を拡大して示したり、日本のお辞儀や会釈、手を振るなど、友達の体に触れないあいさつの動きを提示したりして、歌の中に取り入れます。

1 聴いて 動いて

◎「どんなあいさつできるかな？」

- (1) 指導用CDの範唱(以下、範唱)を聴いて様々な国のあいさつの言葉を知り、歌を楽しむ。
 - ・ 教科書の挿絵を見ながらどこの国のあいさつかを知り、範唱を聴く。
 - ・ 範唱を聴きながら、マスクをかけたまま、合いの手にあいさつの言葉を心の中で(状況によっては小さめの声で)言う。
- (2) 範唱を聴きながら、旋律のリズムの反復に気付き、手拍子で旋律のリズムを打つ。
 - ・ 1段目と2段目、3段目と4段目の旋律のリズムがそれぞれ同じであることに気付き、心の中で歌いながら手拍子で打つ。
 - ・ 手拍子を打ったあと手を広げるなどして音の長さを表したり、3、4段目のシンコペーションのリズムを強く打って強弱の変化をつけたりして、歌うように表現する。

2 動きで呼びかけ合い

◎「歌とあいさつの呼びかけ合いを体の動きで表そう！」

- (1) 2つの組に分かれて、心の中で歌いながら呼びかけとこたえを楽しむ。
 - ・ 教科書の挿絵を参考に「おはよう」「ありがとう」「さようなら」の手話を覚えて、範唱を聴きながらあいさつの部分で手話を入れる。
 - ・ 「歌チーム」＝手拍子と、「あいさつチーム」＝手話に分かれて、呼びかけ合いを意識しながら範唱に合わせて表現する。 ※3、4段目は、一緒に手拍子を打つ。
- (2) 歌やあいさつに合う体の動きを工夫し、2つの組で呼びかけ合う。

例) 歌：1、2段目＝拍に合わせて両腕を前後に振り、長い音で両手を前に広げる。

3、4段目＝1・3拍でサイドステップ踏み、2・4拍で手拍子を打つ。

あいさつ：1番＝おはよう等＝お辞儀を1回、2番：ありがとう等＝ピースサイン

3番＝さようなら等＝手話 ※3、4段目は、「歌チーム」と同じ動き

●評価

知 歌詞の表す気持ちと曲想、旋律の特徴や拍と曲想との関わりに気付いている。

思・判・表 旋律のリズムや音の動き、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さを感じ取り、拍にのって歌うように体の動きを工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

態 自分や友達の表現の仕方に関心をもち、歌に合わせて体を動かす学習に楽しく取り組もうとしている。

●これからどうする?●

「あいさつは魔法の力」(東京都のあいさつソング)と言われるぐらい、人と人をつなげます。なかなか会えなかった友達と、笑顔で表現できるように本教材を日常的に楽しみましょう。

第2学年 題材1「音楽で みんなと つなごう」

♪ ともだちと せかいの あそびうたを 楽しみましょう。

「小犬の ビンゴ」「ロンドンばし」(1時間)

●今 何をする?●

★ 児童に人気のある世界の遊びうたです。音楽を聴いて歌を覚えることを中心に、拍のついでゲームをしたり体を動かしたりして遊びうたを楽しみます。

☆ B, I, N, G, O のカードを用意します。

1 聴いて 動いて

◎「曲の雰囲気を感じ取って聴こう！」

- (1) 「小犬の ビンゴ」と「ロンドンばし」の鑑賞用CDの日本語版を聴き、歌を覚えて遊ぶ。
 - ・ 幼稚園や保育園等で聴いたり歌ったりしている児童が多いと思われるので、音楽に合わせて、自由に体を動かしたり心の中で歌ったりしながら聴く。
 - ・ 鑑賞用CDの日本語版を聴きながら、足踏みをしたり「BINGO」のリズム

タン	タン	
----	----	--

タ	タ	タン	
---	---	----	--

 を打ったりしながら聴く。
- (2) 鑑賞用CDの英語版も聴き、英語の遊びうたのよさや面白さを味わう。
 - ・ 英語版でも、日本語版と同様に体を動かしながら聴く。

2 聴いて 遊んで

◎「ゲームをしながら音楽を聴こう！」

- (1) 「小犬のビンゴ」は、「BINGO」一文字一文字に体の動きを入れる遊びをしながら聴く。
 - ・ 「B」から順に手拍子を加えたり、「O」から逆に手拍子を入れたりして楽しむ。
 - ・ 慣れてきたら、教師が示すカードの文字の部分だけ手拍子を打ったり、代表児童が示す文字以外の部分で膝を打ったりするなど、様々なバージョンで楽しむ。例) ①教師が示す文字の部分だけ手拍子を打つ。 教師：B, G → 児童：手 I N 手 O
②代表児童が示す文字の部分以外で膝を打つ。 代児：B, G → 全児：B 膝 膝 G 膝
- (2) 「ロンドンばし」は、2列で橋を作り、その間を音楽に合わせて二人ずつ歩き、役割を交代して遊ぶ。

・ 2列の橋は、背中合わせになり、左右前後 1.5m の距離を置いて橋をつくる。橋の上の二人は、1.5m 離れて歩く。

例) 橋 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥
橋の上 ● ● →
橋 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※1○の児童は、その場で拍に合わせて手拍子
●の児童は、拍に合わせて歩き、「さあ どう
しましよう」で⑥の隣に距離をとって並ぶ。
※2回目は、①の二人が●になり、橋の上を歩く。
これを繰り返す。

●評価

思・判・表 拍やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すそれらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、体を動かしながら曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。

態 友達と一緒に体を動かしながら音楽を聴く活動を楽しみ、世界の遊びうたに親しもうとしている。

●これからどうする?●

歌ってもよい場合は、普段の学習のアイスブレイクにも活用し、歌いながら楽しみましょう。

第2学年 題材1「音楽で みんなと つながろう」

♪ かくれんぼで あそんで いる ようすを おもいうかべながら うたいましょう。

「かくれんぼ」(1時間)

●今 何をする?●

- ★本教材は、わらべうたの音階を使ってつくられた歌唱共通教材で、児童にはなじみの歌です。ここでは、「もういいかい」「まだだよ」「もういいよ」の旋律やリズムを楽器で強弱等を工夫して表し、呼びかけとこたえのよさや面白さを味わいます。
- ☆カステネットやタンブリン、鉄琴や木琴などの打楽器を用意します。授業の前にも手をよく洗い、交代で使うときは、除菌できるように準備をしておきます。

1 聴いて 遊んで

◎「かくれんぼ遊び風に歌を楽しもう！」

- (1) 手拍子で拍を小さく打ちながら指導用CDの範唱(以下、範唱)を聴いて、曲想をつかむ。
 - ・ 拍を打つチームと旋律のリズムを打つチームに分かれて、手拍子を打つ。
 - ・ 旋律のリズムを打つチームを「もういいかい」と「まあだよ」「もういいよ」の2組に分け、呼びかけとこたえを意識して手拍子を打つ。
- (2) 範唱を聴きながら、スキップやじゃんけんをして遊ぶ。

例)「かくれんぼするもの よつといで」=スキップ(できない児童は、手拍子等でもよい)

「じゃんけんぽいよ あいこでしょ」=拍にのってじゃんけん(教師と児童、代表児童と他の児童)

「もういいかい」 =教師や代表児童が「回りを見渡す」動き

「まあだよ」 =教師や代表児童に負けとあいこの児童が「こたえる」動き

「もういいよ」 =教師や代表児童に勝った児童が「こたえる」動き

2 楽器で呼びかけ合い

◎「楽器でかくれんぼ遊びをしよう！」

- (1)心の中で歌いながら、どのような呼びかけ合いになっているかを考える。
 - ・ 「メッセージ」の合いの手とは異なることに気付き、手拍子で旋律のリズムを打ち、「もういいかい」「まあだよ」等の旋律の音の動きやリズムの特徴を感じ取る。

児童A:「もういいかい」は、タン タン | タン ウン ||のリズムで、「まあだよ」は?

児童B:使われている音は同じかな? 「もういいよ」は、「もういいかい」と同じだね!
- (2)「もういいかい」や「まあだよ」等を表す楽器を決めて、音の出し方を工夫して表現する。

例)「かくれんぼ〜」「じゃんけんぽいよ〜」=全員で旋律のリズムをやや強く手拍子で打つ。

「もういいかい」=代表児童:オルガン = f ソ シ | ラ ・ ||

「まあだよ」=代表児童:カステネット = mf タン タッカ | タン ウン || (2回目は mp)

「もういいよ」=代表児童:鉄琴 = p ソ シ | ラ ・ ||

●評価

知: 歌詞の表す様子や呼びかけとこたえ、強弱や拍と曲想との関わりについて気付いている。

思・判・表 歌詞の表す様子や呼びかけとこたえ、強弱や拍と曲想との関わりを考え、音色や強弱を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする?●

スキップや拍打ちなどを通してリズムを感じ取ったり、呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みを学んだりすることは、今後の学習の基盤となる内容です。その力を身に付け、外でのびのびと遊べるようになったら、かくれんぼを楽しみながら声を出して歌ってほしいものです。

第2学年 題材2「はくの まとまりを かんじとろう」

♪ 2びょうしを かんじながら うたいましょう。

「はしの上で」(1時間)

●今 何をする?●

★教師の2拍のリズム打ちをまねしながら、2拍子を感じ取ります。

★指導用CDを聴きながら音楽に合わせて拍を打ったり、2拍子を感じて手や膝を打ったりします。

☆音楽授業支援DVD(以下、支援DVD)を見てまねをするようにすると、手遊びの仕方がよく分かります。その際、ペアで手を合わせる場所は省きます。

☆カスタネット、タンブリン、鈴等を使用する場合は、除菌用の消毒綿を用意します。

1 聴いて、感じて

◎「心の中で歌いながら 2拍子を感じ取ろう」

(1) 指導用CDの範唱(以下、範唱)を聴きながら、軽快で楽しい曲想を感じ取る。

- ・範唱を聴きながら、体を左右に揺らしたり足踏みをしたりして拍を感じるようにする。
- ・旋律のリズムを手拍子で打ち、**タッカ**のリズムがうきうきする曲想と関わっていることに気付くようにする。

(2) 範唱に合わせて手・足拍子を行い、2拍子の拍のまとまりを感じ取る。

- ・支援DVDを参考にし、心の中で1、2と唱えながら拍打ちをする。

2 聴いて、合わせて

◎「2拍子の拍打ちを回そう！」

(1) 拍にのって、「2びょうしでリズムあそび」を楽しむ。

- ・支援DVDのようにリズムのリレーが止まらないようにし、4人ぐらいで行う。
 - ・打つ場所を変えたり、リレーする人数を増やしたりすると緊張感があって楽しめる。
 - ・次の友達に渡すように、次の人に手を向けながら手・足拍子をするとうい。
- この場合は、友達との距離を保つようにする。

(2) カスタネット、タンブリン、鈴などを使ってリズム遊びをしたり、範唱に合わせてりする。

- ・1拍目をタンブリン、2拍目を鈴、のように音色を変えると、2拍子を感じ取りやすい。
- ・ペアで2拍を1拍ずつ分担し、範唱に合わせて演奏する。

例) 児童A:タンブリンで1拍目、児童B:鈴で2拍目

●評価

思 拍やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、拍にのってリズム打ちを工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。

態 拍のまとまりに興味・関心をもち、友達と交流しながら拍を打つ学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする?●

友達とぶつからないように動ける場所がある場合は、ステップを考えるなど、体全体で2拍子を感じ取ることも大切です。2拍子は、最も基本的な拍子なので、リズム遊び等を通してしっかり身に付けておくことが、今後の学習を支えます。

第2学年 題材2「はくの まとまりを かんじとろう」

♪ 3びょうしを かんじながら うたいましょう。 「たぬきの たいこ」(1～2時間)

●今 何をする?●

★「はしの上で」と聴き比べをしながら、2拍子と3拍子との違いを感じ取って、3拍子の特徴ある拍のまとまりに気付くようにします。このとき、自由に体を動かしたり手を打ったりして、より3拍子の拍のまとまりを感じ取りやすくします。

☆音楽授業支援DVD(以下、支援DVD)を参考にしながら3拍子を打つ学習は効果的ですが、ここでは、一人で打ったり、手を合わせずに手遊びしたりするようにします。

1 聴いて、感じて

◎「3拍子ってどんな感じ?」

- (1) 指導用CDの範唱(以下、範唱)を聴き、曲想をつかむ。
 - ・ 範唱に合わせて体を動かしたり手拍子をしたり、「はしの上で」の範唱と聴き比べたりして、2拍子と3拍子との違いを感じ取る。
 - ・ 2曲を比べながら聴いて、気付いたことや感じたことを発表する。
 - ・ 友達の気付いたことを全員で共有するために、再度聴く。
- (2) 範唱に合わせて手・足拍子をし、3拍子の拍のまとまりを感じ取る。
 - ・ 支援DVDを参考にし、心の中で1、2、3と唱えながら拍打ちをする。

2 聴いて、合わせて

◎「3拍子のリズムを打とう」

- (1) 支援DVDを参考に、一人で3拍子のリズムの打ち方を考え、範唱に合わせる。
 - ・ 音色に気を付けながら、1拍目～3拍目で、体のどこを打つか考える。
例) 1拍目=膝、2拍目=手拍子、3拍目=頭 など
 - ・ 範唱に合わせて、自分で考えた3拍子のリズムの打ち方で演奏する。
- (2) 拍にのって、3拍子のリズムをリレーする。
 - ・ 2拍子のときと同じように、次の友達にリズムを渡すような気持ちでリレーする。友達との距離を保つように気を付ける。
- (3) 範唱に合わせて、音色に気を付けながら3拍子のリズムをリレーする。
 - ・ 一人1小節ずつリズムを打ち、拍にのってつなげられるようにする。
例) ♪ たぬきの ぼうやが やまで タンタタン～
児童A 児童B 児童C 児童D ～
<足手手><膝手頭><手膝膝><膝肩肩>～

●評価

技 音色に気を付けて、音を合わせてリズムを打つ技能を身に付けている。

思・判・表 拍のまとまりやリズムを聴き取り、2拍子と3拍子の違いが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、3拍子を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする?●

「はしの上で」の2拍子、「たぬきの たいこ」の3拍子の拍打ちは、授業の始めの2～3分に常時活動として行くと、拍のまとまりがつかめ、今後の4拍子の学習にもつながっていきます。

第2学年 題材3「ドレミで あそぼう」

♪ 音の たかさに 気をつけながら，うたったり きいたり しましょう。

「ドレミの うた」（2時間）

●今 何をする？●

★鑑賞用CDの「ドレミの うた」を聴きながら，心の中で歌います。よく知られている曲でもあり，思わず声を出して歌いたくなってしまいますが，心の中で歌うという活動も，音楽をじっくり味わったり，曲の感じをつかんだりするには大切な学習といえます。

☆「ドレミ風船」を活用すると，音の高さを視覚的にもつかむことができます。

トーンチャイムやベル等，一人一音の楽器を使うときには除菌用の消毒液等を準備します。

1 聴いて，感じて

◎「みんなが知っている曲をじっくりと聴こう！」

(1) 鑑賞用CDを聴いて，ドレミを覚える歌であることを知り，曲想をつかむ。

・どんな感じの音楽なのか，改めて考えながら聴くようにし，気付いたことや感じたことを伝える。

※教師が「元気な感じかな？」と発問し，それに対して挙手をするなど，発言の仕方に留意する。

・発言内容を確認しながら再度聴く。

(2) 一人一音で演奏できるトーンチャイム，またはベル等を使って，階名に親しみながら聴く。

・音楽に合わせて，歌詞が階名の部分で音を入れる。

例) 歌 「ド は ドーナツの ド」～

楽器 ド ド ド

・自分の音に集中しながら，次の音へのつながりを意識するよう促す。

※ド～レの一人一音の楽器を用意し，交代で演奏する。こうした楽器がない場合は，鉄琴等で，一人一音ずつ担当して演奏することもできる。

2 聴いて，動いて

◎「ドレミを体で表そう」

(1) 歌詞が階名の部分で「ドレミ風船」を指しながら，音の上がり下がりを感じ取る。

・教師は，指導書の付録の「ドレミ風船」を黒板に貼付し，児童と一緒に指し示す。

・代表児童が「ドレミ風船」を指し示し，他の児童は，それに合わせて手を動かす。

(2) 歌詞が「ドレミ～」の部分は，下のような体の動きで音の高さを表し，音楽を聴く。

例) ド→かかとをさわる レ→ひざをさわる ミ→おなかをさわる ファー→胸で手を交差
ソ→両手を水平に広げる ラ→肩をさわる シ→頭をさわる ド→両手を上げる

※体を動かす際には友達とぶつからないように注意する。

・歌詞が階名の部分で2パートに分かれるところは，どちらも体の動きを入れて，二つのグループに分かれて合わせると，2パートの旋律の音の動きの違いが可視化できる。

●評価

知 歌詞の表す情景や気持ち，歌声の響きや旋律の音の動きなどと曲想との関わりに気付いている。

思・判・表 歌詞の表す気持ち，歌声の響き，旋律の音の動きを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲や演奏の楽しさを見だし，体を動かすなどして味わって聴いている。

態 歌詞の表す情景や気持ち，歌声の響きや旋律の音の動きなどと曲想との関わりに興味・関心を持ち，音の高さに気を付けて聴く学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

ここで示した音の高さを感じ取る活動を常時活動として行くと，音の高さの感覚が養われます。

第2学年 題材3「ドレミで あそぼう」

♪ 音の たかさに 気をつけながら、うたったり ふいたり しましょう。

「かっこう」 (1～2時間)

●今 何をする？●

★指導用CDの歌詞唱、階名唱を聴きながら、曲想を感じ取ったり、旋律を階名で覚えたりします。

★3拍子の曲であることに気付き、「たぬきの たいこ」の学習を思い出してリズム打ちをすると、3拍子の拍のまとまりを感じた演奏につながります。

☆音の高さを感じ取るために、「ドレミ風船」を掲示します。

☆演奏の工夫をするために、「ふきかたの くふう」を参考にすると効果的です。

1 聴いて、感じて

◎「どんな曲かな？」

(1) 指導用CDの範唱（以下、範唱）を聴いて「かっこう」の歌であることを知る。

- ・“かっこう”は鳴き声のようだと気付くことが、演奏の工夫につながる。
- ・3拍子であることに気付いて、範唱に合わせてリズム打ちをする。

(2) 指導用CDの階名唱を聴きながら、心の中で階名で歌う。

- ・階名が覚えられるよう、何度か聴く。その際、p.22のドレミ風船や教科書の絵譜を指さしするとよい。

2 演奏の仕方を考えて

◎『かっこう』の鳴き声から演奏の仕方のヒントをもらおう！」

(1) 指導用CDの階名唱や教師の演奏に合わせて、指で演奏する（以下、「指演奏」とする）。

- ・教師に見えるように手を挙げて指番号通りに指を動かす。
- ・この曲は手の位置を動かさず演奏できるので、指使いを意識して「指演奏」する。
- ・1段ずつゆっくり練習しながら、1段目と3段目のリズムが違うことに気付く。
- ・指使いに気を付けて、鍵盤ハーモニカの上で音を出さずに「指演奏」する。

(2) 旋律の音の動きや音色に気を付けて、木琴やキーボードなどで演奏する。

- ・友達が演奏しているときには、他の児童は「指演奏」したり、友達の演奏を聴いたりする。
- ・演奏したい楽器を選び、「ふきかたのくふう」を参考にし、どのように演奏したらよいかについて考えたり、友達の意見を聞いたりしながら演奏の仕方を工夫する。

●評価

技 範奏を聴いたり絵譜を見たりして、旋律の音の動きや音色に気を付けて楽器で演奏する技能を身に付けて演奏している。

思・判・表 音色や旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞から演奏の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする？●

夏休みに、鍵盤ハーモニカの練習や、階名で歌いながら「ドレミ風船」を指さしたり、ドレミを表す体の動きを工夫したりすることを課題として出すことも考えられます。

第2学年 題材3「ドレミで あそぼう」

♪ 音の たかさに 気をつけながら，うたや がっきで おいかけっこを しましょう。

「かえるの がっしょう」(2時間)

●今 何をする？●

★指導用CDに合わせて絵譜を指さしたり，歌のリズムを手拍子で打ったりします。

★指番号通りに指を動かしたり，鍵盤の上で音を出さずに指だけを動かしたりします。

☆大きな鍵盤の絵を掲示し，演奏する場所を示してあげると効果的です。

☆指番号を意識する指導の際には，教科書の絵譜の指番号を大きく掲示するといいでしょう。

☆木琴，キーボード等を使う場合は，除菌用の消毒液等を準備します。

1 聴いて，動いて

◎ 「音の高さはどう変わっているのかな？」

(1) 指導用CDの階名唱を聴きながら，心の中で歌う。

・「ドレミ風船」を指さしたり，「ドレミのうた」で行った体の動きで表したりし，音の高さを感じ取ることができるようにする。

(2) 体の動きで階名を表したりしながら，追いかけてっこをする。

・体の動きを伴うことで，視覚的に追いかけていると感じ取ることができるようにする。

・はじめは学級全員と教師，数名の児童と教師でやってみて，慣れてきたら，2グループに分かれて「動きで追いかけてっこ」をする。追いかける順番は交代で行う。

※CDの速度を変えられる場合は，少し遅くするとよい。

2 楽器に挑戦！

◎ 「鍵盤ハーモニカの『指演奏』から，いろいろな楽器へ！」

(1) 指導用CDまたは，教師の演奏に合わせて指番号通りに指で演奏する（「指演奏」）。

・手を挙げて，指番号通りに指を動かす。その時に，ドレミファ | ミレド・の「・」の時にミの鍵盤の位置に「1の指（親指）」を移動する（お引越し）ことを意識するよう促す。

(2) 鍵盤の上で，心の中で階名唱をしながら，手のポジションに気を付け，指で演奏する。

(3) 慣れてきたら，数名ずつ，木琴やキーボードで演奏する。

・音色の違う楽器で追いかけてっこをし，楽器の音からも一つの旋律がずれて重なる面白さを感じ取るようにする。

●評価

知・技 旋律やフレーズ，音楽の縦と横との関係と曲想との関わりに気付き，互いの音を聴いて，表現する技能を身に付けて演奏している。

思・判・表 旋律やフレーズ，音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音の高さを表す体の動きを工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

態 音の高さを感じ取り，体の動きで表現したり，指を動かして，鍵盤の練習をしたりする学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

鍵盤楽器上の手のポジション移動は，次の「ぷっかりくじら」や2学期の「山のポルカ」等，今後の学習にも応用できる大切な学習です。実際に音を出すと，意識が音だけに向いてしまうことがありますので，こうした機会に楽しみながらポジション移動を覚えましょう。

第2学年 題材3「ドレミで あそぼう」

♪うたにあわせて がっきを ふきましょう。 「ぷっかり くじら」(2時間)

●今 何をする? ●

★鍵盤ハーモニカを吹くことはできませんが、これまでに身に付けてきたポジション移動や階名唱を生かして、演奏したり旋律をつくったりします。

★心の中で歌ったり旋律のリズムを手拍子で打ったりして、歌詞の内容や旋律と曲想との関わりに気付き、表現の工夫につなげます。

☆鍵盤ハーモニカを大きく黒板に映して演奏する場所が分かるようにしておきます。

☆「せんりつあそび」をするときには教科書の絵譜を大きく掲示したり、音楽授業支援DVDを活用したりすると音の選び方が分かりやすくなります。

1 聴いて、感じて

◎「ぷっかりくじらはタッカタッカくじら？」

- (1) 指導用CDの範唱や範奏を聴いて気付いたことや感じたことを発表する。
 - ・旋律のリズムを手拍子で打ち、スキップのリズムが多いことに気付く。
 - ・既習の「かえるの がっしょう」をリズム打ちして比べてみると違いを感じ取りやすい。
 - ・スキップのリズムが多いとどんな感じがするか、考えるよう促し、軽快な曲想を感じ取る。
- (2) 自分や友達の気付きを確認できるよう再度聴き、心の中で歌詞唱する。

2 聴いて、まねして

◎「ポジション移動はおまかせ？」

- (1) 副次的な旋律の特徴に気付き、範唱に合わせて指で演奏（「指演奏」）する。
 - ・指導用CDの階名唱・器楽を聴き、「ドレミ風船」や楽譜を指さしながら心の中で階名唱する。
 - ・教師に見えるように右手を挙げて、リズムに合わせて指番号通りに「指演奏」をする。
 - ・指導用CDの階名唱・器楽に合わせ、心の中で階名唱しながら「指演奏」をする。
 - ・「かえるの がっしょう」で学んだ手のポジション移動を思い出すようにする。
- (2) 範唱や教師の演奏する歌の旋律に合わせて、副次的な旋律を演奏する。
 - ・木琴やキーボードなどを使って交代で演奏する。

3 せんりつあそび

◎「つくって合わせよう！」

- (1) 木琴や鉄琴、キーボードなどを使って、即興的に音を選んで旋律をつくる。
- (2) つくった旋律を聴き合う。
 - ・友達が選んだ音が分かるように掲示した絵譜を指すとよい。
- (3) つくった旋律を範唱に合わせて演奏する。

●評価

知 歌詞の表す情景や気持ち、歌声の響きや旋律の音の動きなどと曲想との関わりに気付いている。

知・技 音のつなげ方の特徴に気付き、提示された音を使って即興的に音を選んだりつなげたりする技能を身に付けてつくっている。

思・判・表 旋律の特徴や歌と楽器の音の重なりと曲想との関わりが生み出すよさや面白さを生かして、演奏の仕方を考え、どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする? ●

机や椅子がない教室で学習できる場合は、旋律のリズムをスキップし、体の動きを通して特徴的なリズムを感じ取るようにします。スキップのリズムに意識を向けることで、実際に歌うときにも軽やかな歌い方ができます。

第2学年 題材4「せいかつの中にある音を楽しもう」

♪みのまわりの音をこえてあらわして、音楽をつくりましょう。

「さがしてつくろう」(3時間)

●今 何をする? ●

★身の回りで聞こえる音を楽器などで表現し、音を組み合わせ、強弱、重なり、反復などを用いて音楽をつくります。図工や生活科で手作り楽器を作って活用することもできます。

☆音程のない打楽器、身の回りにある物から見つけた音、手作り楽器など、実態に合った音具を用意します。

☆音楽授業支援DVDを活用すると、学習にスムーズに入れます。

1 聴いて、表して

◎「音を見つけてつくろう！」

- (1) 授業支援DVDを活用して(音ノートの場面まで)どんな活動をするのかをつかみ、音を探しに学校内を探検し、見つけた音を「音ノート」に記録する。
 - ・校庭のみ、教室前の廊下のみなど、広すぎない範囲で行うようにする。耳を澄ます、自分の声や音を出さないなど、教室の外へ出るときの約束をすることが大切である。
 - ・「音ノート」には、自分の家の中や周囲の音探しを行って、それを記録してもよい。
- (2) 見つけた音の特徴に合った音具を選び、音の出し方、強い・弱い、高い・低い、長い・短いなどいろいろな音を試して、どのように表現するか工夫する。

2 聴いて、つくって

◎「音を組み合わせてつくろう！」

- (1) ペアで自分のつくった音を紹介し合い、互いに見つけた音の特徴を知る。
- (2) 呼びかけとこたえで即興的にリレーをしたり、音を重ねて反復したり、いろいろなつなげ方を試す。
 - ・強い・弱い、高い・低い、長い・短いなど、音の特徴も取り入れるように促す。
- (3) ペアでどのようにつなげたり重ねたりするかを相談する。二人でできる組合せを例示するとつくりやすい。

例)



- (4) つくった作品を発表する。

●評価

知① 生活の中で聞こえる様々な音の特徴に気付いている。

知② 様々な音のつなげ方や重ね方の特徴に気付いている。

技 様々な音を組み合わせ、反復を用いて音楽をつくる技能を身に付けてつくっている。

思・判・表① 様々な音の音色を聴き取り、それらの音や組合せのよさや面白さを感じ取りながら、どのように音で表すかを工夫しながら、音楽づくりの発想を得ている。

思・判・表② 様々な音の音色を生かし、その組合せが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音の重ね方や反復の仕方を考え、どのような音楽にするかについて思いをもっている。

態 身近な生活の中で聞こえる音から、身の回りにある多様な音に興味・関心を広げながら、様々な音を表現したり友達と音楽をつくったりする学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする? ●

声が出せるようになったら、いろいろな声の出し方を工夫してやってみましょう。「音ノート」づくりは、夏休みの課題にすることもできます。